

## 玉川新人物伝 ④

村の史実を探りながら  
貴重な文化財を数多く残したい。



# 岩谷 浩光

Iwaya Hiromitsu  
大雷神社 宮司  
小高民俗芸能保存会顧問  
石陽史学会会員

慶長年間から40代にわたる旧家で、小高地区・大雷神社の宮司であり、周辺の神社の管理を一任されている存在だ。

また、秋祭りに大雷神社で披露される恒例の「浦安の舞」の後見人である。夏休みに村の小学5・6年生の少女が体育館に集まり、4人一組で稽古に励み、「日本全国津々浦々が平安でありますように」と静かな祈りを内に秘めて奉納する。

さらに昭和40年頃から古文書・歴史書を執筆し、「玉川村史」や「福島県の地名大辞典」などの編著を手がけ、専門誌にも多くの投稿がある。古墳から古代文字の解読まで、

岩谷さんの手にかかれば、わからないものはないだろう。

玉川村、浅川町、石川町、郡山市の公民館主催「市民講座」の古文書講師を長年頼まれ、感謝状が書斎にあふれている。平成5年に「文化財保護」文部大臣表彰を授与されたほか、県知事からの表彰状も。

「古文書解読は、いくら経験が積んでも十分ということがない。膨大な資料を集めてやっと解読できたときに、初めて充実感を感じる…。歴史を見つめ続けてきたこの鋭い眼力こそ、村の貴重な史跡・文化財を後世に伝えるエネルギーなのだ。」

## 玉川新人物伝 ⑤

豊年満作に感謝する気持ちを  
子供たちに伝えたい。



# 溝井 郁夫

Mizoi Ikuo  
平鉞踊り保存会長  
小高民俗芸能保存会会長

小高、竜崎、北須釜、南須釜、山小屋で3〜5年に一度、披露されていた「平鉞踊り」。小高地区では一時は途絶えたが、20名の子どもたちにより、9月から秋祭り当日までの毎週土曜日に公民館で練習が行われるようになった。

溝井さんが、大雷神社の宮司から「平鉞踊り」継承の頼みを快く引き受け、6年が経過。

独特な竹製の横笛を吹く8名の青年にあわせて、60歳前後の婦人たちが子どもに稽古をつけ、本番では2列になって鐘を鳴らし神社本殿に一礼した後、10分前後の踊りが奉納されている。

はちまきに法被、腰帯、足袋に草履。

花を背負い、白い障子紙と金紙で飾った鉞を両手に持ち、こすりあわせて打ち鳴らす。

「地元の人からは『平鉞踊りをここまでしてくれてありがたい』といわれ、苦勞の甲斐があったと思っっている。

現在は地域の人々からの寄付も集まるようになり、子どもが本気になって踊る姿を見ると、村の子どもの育成に役立っているのかなと感じる。神様に感謝する気持ちを忘れずに、育ててくればいい。」

平鉞踊りを保護、保存継承しようという強い想いが地域の人々にある限り、伝承芸能として今後も残されていくことだろう。